

Town of Literary Works

32 bronze sculptures stretch 1km westward from the modern Takasaka Station building. They were created by the noted Ishikawa-born sculptor, Hiroatsu Takata in 1986. Karako district features in Muraji Uchiki's autobiographical novel, "Ten no Sono" which along with "Robo no Ishi" and "Jiro Monogatari" is widely considered to be one of the most important works of Japanese children's literature. Maruki Art Museum, constructed in 1967, houses works of famed "anti-war" artist couple, Iri and Toshi Maruki, who were nominated for the Nobel Peace Prize in 1995.



地元の唐子地区では、児童文学「天の園」を広める活動を展開。記念碑を唐子中央公園に建立したのをきっかけに、「天の園の会」を発足し、記念碑の清掃や文学散歩、イベントなどを催しています。

打木村治の作品、「天の園」は明治後半から大正初期の唐子村(現在の唐子地区)を舞台として、当時の暮らしと風景を描いた自伝的長編小説で、「路傍の石」「次郎物語」と共に三大児童文学と言われています。

小説では、主人公の少年が、都幾川や農村の豊かな自然の中、貧しくとも母の愛のもとで、伸びやかに成長していく様子が描かれています。約100年前の古里の表情をいきいきと描写した「天の園」は評判を呼び、平成17年春には第一部「雲の学校」が、アニメ「フランダーズの犬」を制作した黒田昌郎監督によりアニメ化されました。

郷土の児童文学 「天の園」の世界

TOPICS



水墨画家 **丸木 位里** (まるき いり)
油彩画家 **丸木 俊** (まるき とし)

東京で制作活動を行っていた丸木位里・俊夫妻は、自分たちの美術館を建てるための場所を探していました。知人の勧めで東松山を訪れると、自然が豊かに残る雄大な風景に感激。とくに都幾川河畔は、位里の生まれ故郷の太田川に似ていたことから、この地に美術館が建てられました。

夫妻は昭和41年から、美術館に併設した自宅で暮らし始め、位里94歳、俊87歳で逝去するまで、精力的に絵画の制作を続けました。夫妻の画業は世界中の人々の支持を受け、平成7年にはノーベル平和賞の候補にもなりました。

平和を願い共同制作 丸木夫妻



東松山市から、世界に平和を発信し続ける丸木美術館は、唐子地区の都幾川左岸の高台に、昭和42年に建設されました。この美術館は広島県出身の画家、丸木夫妻が自作「原爆の図」を展示するため私財を投じて建てたもので、全15部構成の作品に込められた平和への祈りが、見る人の胸を打ちます。

館では毎年8月6日に、とうろう流しやコンサートなどの「ひろしま忌」も行っています。

丸木美術館で 平和について考える



Academic Town Laden with Literature and Art

文学と芸術があふれる 学びのまち。



歩きながら芸術と触れ合う 彫刻のある通り

三角屋根の時計塔のある美しい高坂駅西口から、西へ延びる約1キロの通りの歩道に合計32体のブロンズ像彫刻が展示されています。これは、昭和57年、石川県出身の彫刻家、高田博厚氏が当市で彫刻展と講演を行ったことが縁となり、昭和61年に高坂駅西口区画整理事業で、市街地環境を整備した際、まちづくりのシンボルとして設置されたものです。

彫刻は、女性像を中心に歴史上の人物など、芸術性の高いものばかり。彫刻の台座には、作品解説の短文も添えられ、鑑賞度を深めています。一人の彫刻家の作品が屋外にこのように並んでいるのは世界的にもあまり例がありません。

通りの並木や周囲の緑の樹々、モダンな白い駅舎などの風景と調和して、この彫刻のある通りは芸術の香り高い雰囲気醸し出しています。

